



エースファーム

オーナー	株式会社エース
水田面積	15.5アール (約469坪)
保証量	玄米698kg
形態・品種	特別栽培コシヒカリ
ブランド	米風土「海」
Co2回収	約1550kg

生産者



中干しも終わり、7月11日には食味向上の為に追肥を行いました。いよいよ秋に向けて水の管理を行っていきます。今年はお穂期が少し遅れているように思われますが、特に自然災害もなく順調です。

高橋 秀紀

7月の作業内容

1. 中干し

田の水を1~2週間ほど田んぼの状況に応じて抜き、完全に乾燥させます。水を完全に切ることで過剰な分けつを抑えたり土の中に新鮮な酸素を供給し根の正常な発育を促進させ倒伏を防ぎます。



中干し

2. 穂肥(ほごえ)

稲が穂をつけるために必要な栄養を与えるために行うものでタイミングが命です。出穂(しゅつすい)直前に散布しますが稲がどの程度ほしがっているか量を見極めるのも重要な仕事です。



稲の育成確認

3. 猪対策の電気柵設置

猪は穂が出揃い始めたところを見計らってやってきます。稲が小さいうちは侵入しないので早めの対策が鉄則です。一度田を荒らされると獣の臭いが稲について出荷できないという最悪なケースもあります。



電気柵

※用語説明【穂ばらみ期】

稲の成育期間のなかで一番水を必要とする出穂直前を指し、幼穂が急速に成長して他の穂と同じ大きさになる時期です。この時期の水管理には特に注意が必要で水分不足が幼穂の育成に大きく影響します。



穂ばらみ期の状態